

大阪法務局長野出張所庁舎 耐震診断業務

耐震診断報告書  
(鉄筋コンクリート造)

平成18年2月

株式会社 建築技研

# 8. 診断結果

## 8-1 診断結果

\*\*\* Super Build / RC診断2001 \*\*\* P評価10-RC [大阪法務局長野出張所 耐震診断]

UNION SYSTEM 1153 PAGE- 6  
[鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断]

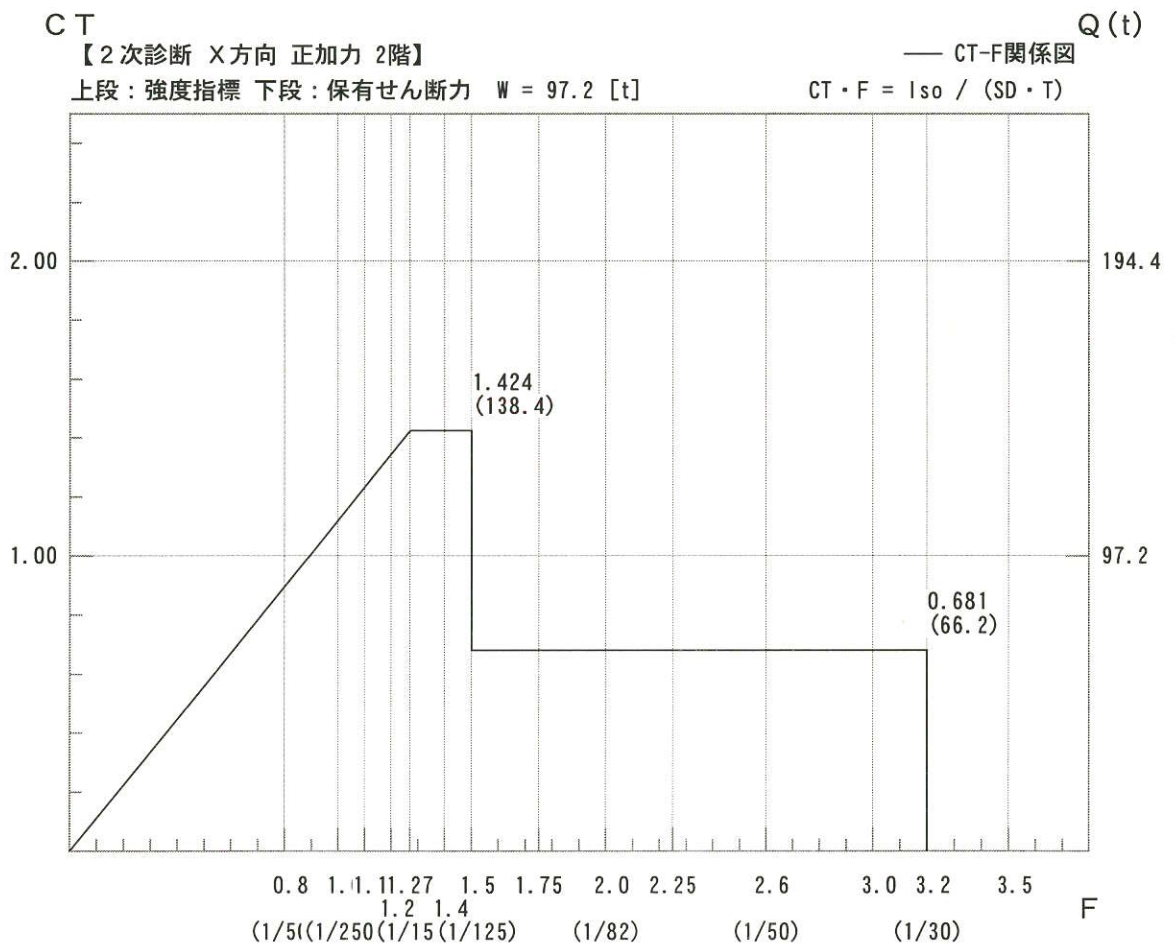
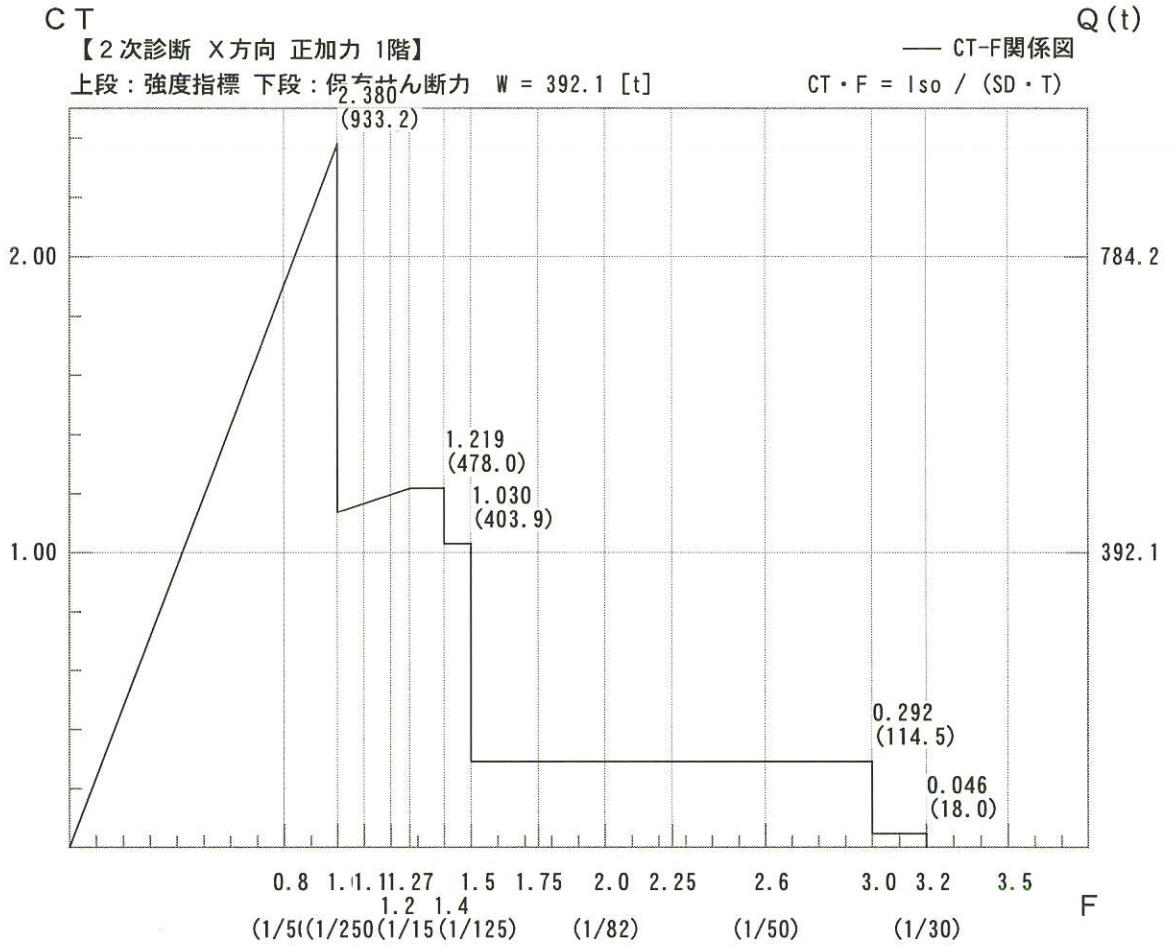
【耐震性能診断表】 X方向 正加力時 2次診断

建物名：大阪法務局長野出張所 耐震診断					建設年月日：昭和51年						
方向：X方向 正加力			診断者：		診断年月日：2006/01/04						
診断次数：2次			経年指標 $T = 0.80$   構造耐震判定指標 $I_{so} = E_s \cdot Z \cdot G \cdot U = 0.60 * 1.00 * 1.00 * 1.00 = 0.60$								
階	Fu	C	F	破壊形式	Eo	SD	Is	CTu・SD	(Nr<N)	判定	
2	(5)式	1.50	( 1.89)	1.50	CB, WB, WCB	2.13	1.00	1.72	1.42	( 0)	○
		3.20	( 0.90)	3.20	CB						
	(4)式	3.20	0.99 ( 0.90)	1.50 3.20	CB, WB, WCB CB	2.44	1.97	0.68	(—)		
1	(5)式	1.00	( 2.38)	1.00	CB, WB, WS, WCB, WCS	2.38	0.91	1.75	2.16	( 0)	○
		1.40	( 1.21)	1.40	CB, WB, WCB						
		1.50	( 1.03)	1.50	CB, WB, WCB	1.54	1.13	0.93	( 0)		
		3.00	( 0.29)	3.00	CB	0.87	0.64	0.26	( 2)		
		3.20	( 0.04)	3.20	CB	0.14	0.10	0.04	(—)		
	(4)式	1.40	1.24 ( 1.21)	1.00 1.40	CB, WS, WCS CB, WB, WCB	2.11	1.55	1.10	( 0)		
		1.50	1.43 ( 1.03)	1.00 1.50	CB, WS, WCS CB, WB, WCB	2.10	1.54	0.93	( 0)		
		3.00	2.16 ( 0.29)	1.00 3.00	CB, WB, WS, WCB, WCS CB	2.33	1.72	0.26	( 2)		
		3.20	2.34 ( 0.04)	1.00 3.20	CB, WB, WS, WCB, WCS CB	2.35	1.72	0.04	(—)		

CB : 曲げ柱      CS : せん断柱      GSS : 極脆性柱  
 CWB : 曲げ袖壁付柱      CWS : せん断袖壁付柱      CWSS : 極脆性袖壁付柱  
 WCB : 曲げ柱型付壁      WCS : せん断柱型付壁  
 WB : 曲げ壁      WS : せん断壁

※ C指標の( )内は、“CT”と“CTu”の計算に使用するC指標値を示す。

※ (Nr<N)欄の( )内は、“残存軸耐力<軸力”の条件に該当する部材数を示す。  
 また、このような柱が存在する欄のIsやCTu・SDは参考値であり、第2種構造要素の対策なしには採用出来ません。



### 8-3 破壊形式

\*\*\* Super Build / RC診断2001 \*\*\* P評価10-RC [大阪法務局長野出張所 耐震診断]

PAGE- 2  
スケール 1/104

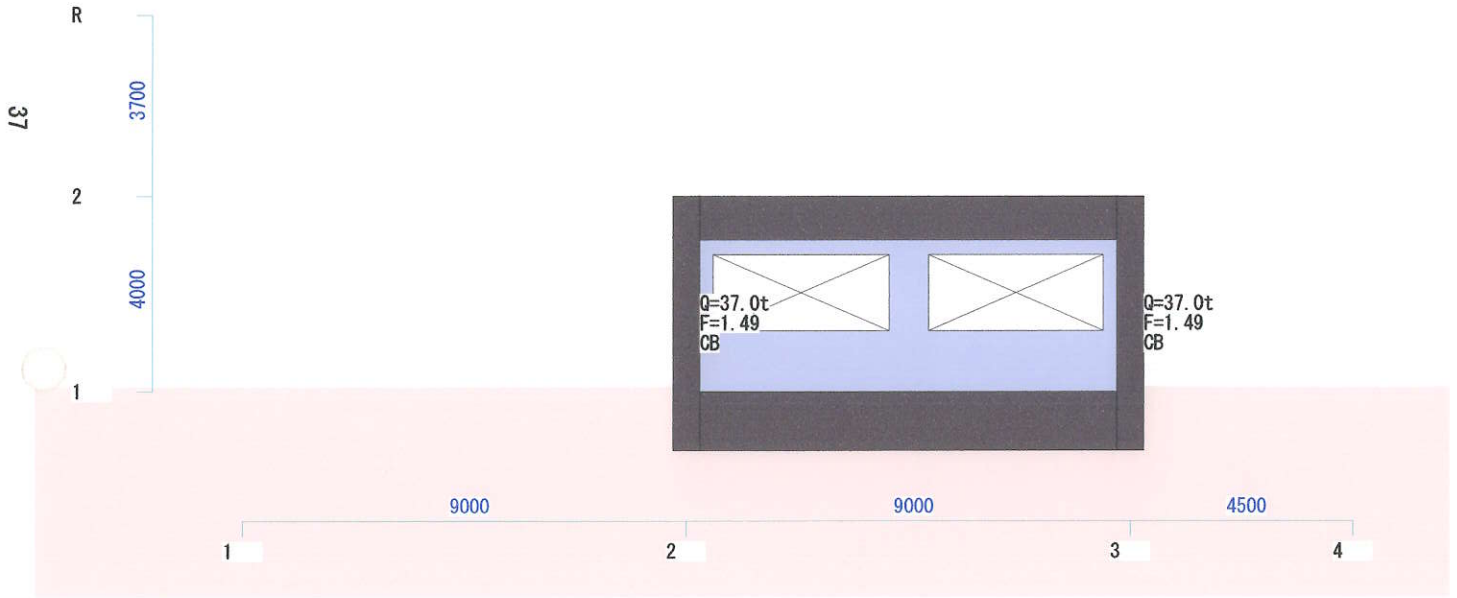
【鉛直部材の諸元(軸組図)】 (A フレーム) X方向 正加力時 2次診断

記号説明

上段: 保有せん断力  
◎ : 極脆性柱  
中段: F指標  
○ : せん断柱  
下段: 破壊形式

破壊形式

CB : 曲げ柱  
CWB : 曲げ袖壁付柱  
WCB : 曲げ柱型付壁  
WB : 曲げ壁  
CS : せん断柱  
CWS : せん断袖壁付柱  
WCS : せん断柱型付壁  
WS : せん断壁  
CSS : 極脆性柱  
CWSS : 極脆性袖壁付柱



\*\*\* Super Build / RC診断2001 \*\*\* P評価10-RC [大阪法務局長野出張所 耐震診断]

PAGE- 3  
スケール 1/104

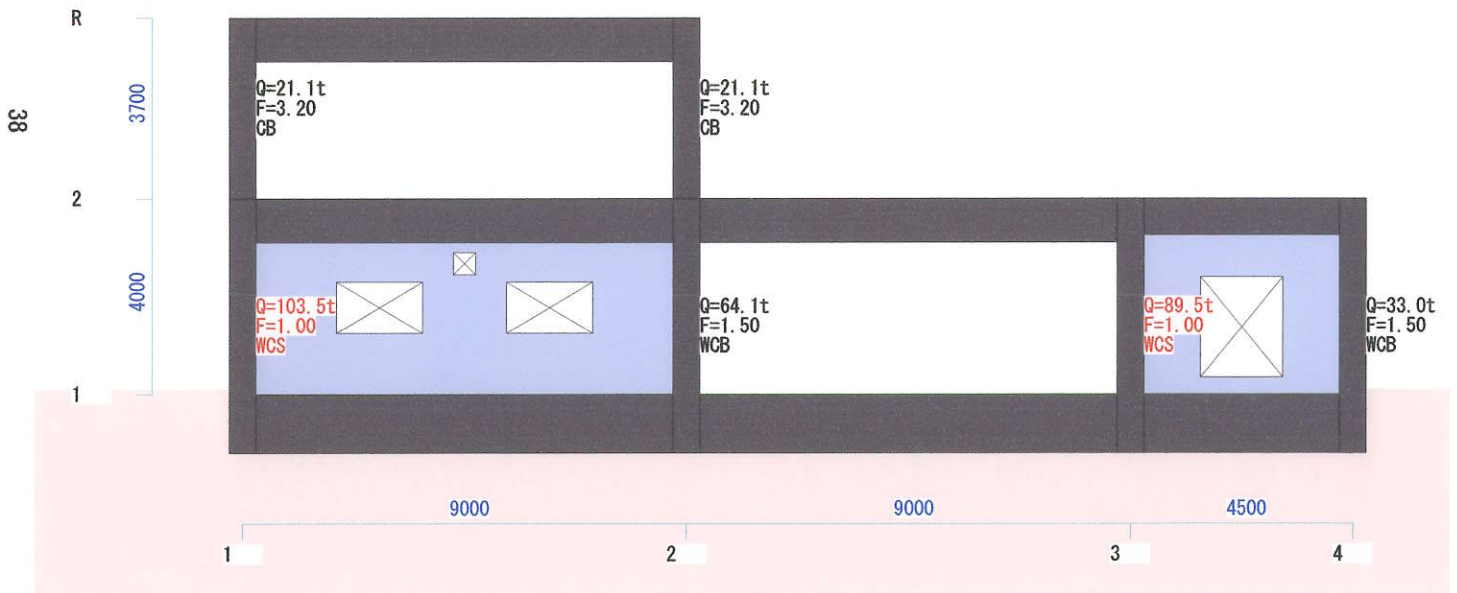
【鉛直部材の諸元(軸組図)】 (B フレーム) X方向 正加力時 2次診断

記号説明

上段: 保有せん断力  
◎ : 極脆性柱  
中段: F指標  
○ : せん断柱  
下段: 破壊形式

破壊形式

CB : 曲げ柱  
CWB : 曲げ袖壁付柱  
WCB : 曲げ柱型付壁  
WB : 曲げ壁  
CS : せん断柱  
CWS : せん断袖壁付柱  
WCS : せん断柱型付壁  
WS : せん断壁  
CSS : 極脆性柱  
CWSS : 極脆性袖壁付柱



#### 8-4 診断結果の所見

現地調査結果では構造体に影響するような著しい損傷は認められなかったが、外壁にほぼ全体にわたりクラックが見受けられた。これらの影響は形状指標で診断に反映させる。また、これらのクラックについてはエポキシ樹脂の注入等の補修が望まれる。

コンクリート強度は調査の結果、 $33.7\sim 35.7\text{N/mm}^2$ で3本ともすべて設計基準強度の $21.0\text{N/mm}^2$ 採用する。

中性化試験の結果については一部の箇所では中性化深さが鉄筋まで達している部分があるため、経年指標に反映させて診断を行った。

診断の結果は2階建てで小規模の建物であり、XY両方向について、壁量が比較的多い建物であり、鉄筋も主筋は異型鉄筋を用いており、帯筋は丸鋼であるが間隔が $100\text{mm}$ と密に配筋されているため、X方向で $I_s=1.41\sim 2.16$ 、 $CTSD=1.14\sim 2.16$ 、Y方向で $I_s=1.29\sim 3.85$ 、 $CTSD=1.60\sim 4.77$ と、十分な耐力を保持しているものと考えられる。